

## 株式会社松徳工業所

設備・人・作業条件を整え  
最適な処理品を提供

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- 試作可小ロット
- 量産対応

## 業務内容

充実の設備で最適な熱処理加工

金属の熱処理加工を専業とする松徳工業所。主に自動車や建機、土木建築用のボルトやネジの熱処理を行っている。

同社はメッシュペルト式焼入れ焼戻し炉、バッチ式焼入れ焼戻し炉、真空焼入れ焼戻し炉、無酸化焼鈍炉といった、熱処理炉を多数保有。充実した設備環境のもと、一般的な焼入れ焼戻しだけではなく、浸炭処理や無酸化処理といった特殊な熱処理加工の対応が可能だ。

その他、耐食性や耐摩耗性を付与するために酸化皮膜を形成させるといった黒化処理を熱処理工程の中でできる設備も有しており、高強度ボルトの処理等を行っている。



同社保有の真空焼入れ焼戻し炉

## 強み

短納期・小ロットも受注  
個々のアレンジにも対応

充実の設備を駆使し、温度や時間、冷却方法をアレンジした加工にも積極的に対応している他、試作品も小ロットから受注する等、顧客の要望は最大限に実現できるように社内体制を構築。例えば、「1日24時間、益と正月以外ほぼ無休で処理ラインを稼働しているため、物理的に可能なら、他社では引き受けないような短納期でも受けま

また、熱処理技能士の有資格者が12名も在籍し、管理、設定、検査を万全にしている。さらに、営業と製造担当者

者の間に信頼関係を築き上げているため、顧客の要望が製造部門に届きやすいのも特長だろう。

## 処理技術

設備とマンパワーで  
特殊な技術も得意とする

熱処理においては、温度管理・処理時間・雰囲気ガス・冷却方法によって処理品の強度や耐久性が大きく変わるため、調整、管理が重要だが、同社は、多種類の設備と熟練の技術により、多様な顧客のニーズに応えている。

例えば、熱間金型に使われるSKD61といった低炭素鋼を処理する際に使用する、真空焼入れの油冷却が得意だ。横尾社長は「焼入れ後の冷却は不活性ガスによる冷却が一般的ですが、油により冷却することで、焼きが入りにくい素材でも、強度と耐久性を確保できるのです」と説明する。

## 今後の展望

さらなる設備充実と  
技術開発で進化を続ける

今後は、ますます設備を充実させ、管理体制もよりいっそう整えたいという同社。燃焼温度や時間、冷却方法の研究による技術開発にも積極的に取り組み、強度・耐久性・ひずみを抑える技術の向上を目指す。炉の更新も積極的に進んで燃焼効率のアップを図る構えだ。

また、表面処理といった後処理にも手を広げ、複合技術を研究する等、他社にはない創意工夫でオンリーワン企業を目指していく。

## COMPANY PROFILE

株式会社松徳工業所

大阪

ISO 9001

ISO 14001

■主な事業内容  
金属熱処理加工等

住所 / 〒582-0027  
柏原市円明町  
1000-30  
TEL / 072-977-0112  
FAX / 072-977-0122  
創業 / 昭和48年12月  
設立 / 昭和50年5月  
資本金 / 1,000万円  
従業員 / 50名

■主な取引先(納入先)

ネジ・ボルトメーカー、自動車部品メーカー、空調機器メーカー等

<http://www.shotoku-netsushori.co.jp>

## 当社の歴史

父が黒染め処理を行っていたため、幼いころから熱処理加工には馴染みがありました。創業は昭和48年、柏原市高井田にて。少しずつ設備を増やしていきましたが、工場内が手狭になったため、平成17年に現在の場所に移転しました。リーマンショックでは痛手を受けましたが、徐々に業績も回復。今後も設備や人材を充実させつつ、進化を続けていきたいと思っています。

強度・耐久性・ひずみのなさ。3拍子揃うよう、  
技術を向上させていきます。

代表取締役社長 横尾 準次さん

